

令和3年度 市民と市長の対話集会 市長と語ろう！ほっとミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 令和3年（2021年）11月26日（金）
午前10時から11時30分まで
- 2 開催場所 オンライン会議
- 3 参加者 未就学の子をもつ保護者10人
無作為に選ばれた保護者宛てに案内状を発送したところ、55人の応募があり抽選により参加者を決定しました。参加できなかった方からの御意見は本報告書の巻末に掲載しています。
- 4 テーマ もっと子育てしやすい平塚に



ほっとミーティングの様子

5 市長あいさつ

皆様こんにちは。平塚市長の落合克宏です。本日はお忙しい中、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただき、ありがとうございます。

この「市長と語ろう！ほっとミーティング」は、市民の皆様から広く御意見や御提案をお聞きすることが重要と考え、市長に就任以来、多くの地域・世代と対話させていただいています。本日も率直な御意見をいただきたいと思っています。

今回のほっとミーティングは、無作為に選ばれた未就学のお子様をお持ちの保護者に案内状を送付させていただき、定員を大きく超える55人から御応募をいただきました。子育て世代の市政への関心の高さをひしひしと感じるとともに、期待の大きさに身の引き締まる思いです。また今回のリモート開催では、参加者同士の何げない会話や交流が難しい面もあると思いますが、子育て中で慌ただしくお過ごしの方も参加しやすいことが大きなメリットであると考えています。

さて、新型コロナウイルス感染症の発生状況ですが、7月後半からの第5波をなんとか乗り越えて以降、11月はこれまで新規陽性者0人を継続しています。ワクチン接種も2回目を完了した方が85%を超えている状況です。しかしながら第6波が懸念されていますので、引き続き各家庭での感染対策をお願いしたいと思います。

一方で、このコロナ禍における生活様式の変化は、GIGAスクール、テレワーク、キャッシュレス決済などデジタル化を進める転機と捉えることもできます。より住みやすい平塚となるよう、未来を見据えてしっかりと取組を進めていきたいと考えています。そのために本日皆様から率直な御意見をいただきたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

6 主なミーティングの内容

【司会】

まず自己紹介も兼ねて、本日市長と話したいテーマについてお一人ずつお話ししていただきたいと思っています。

【参加者A】

私は、市内公立小学校で6年間教員をして現在育休中です。来年4月に復職予定ですが、現場では自分や子どもの体調が悪くても休むことをためらう現状があります。ぜひ担任をもたないフリーの教員を配置してもらえるとありがたいです。

【参加者B】

土屋地区に住んで、子どもは未就学2人、小学生2人います。本日は公共施設の駐車場についてお話ししたいと思います。

【参加者C】

未就学と小学生を育てながら、NPOで障がい者サポートの仕事をフルタイムでしています。フルタイムで働く女性がより働きやすくなるため、保育園の時間延長と、ファミリーサポートセンターを利用しやすくしてほしいです。

【参加者D】

未就学2人を育てています。上の子が自閉症のため、子ども発達支援室くれよんにお世話になっています。平塚市のルールでは、事業所利用が1か所に限られることや、説明会を受けないと見学などもできず、利用しづらい面があります。より使いやすく改善してほしいです。

【参加者E】

2人の未就学児がいます。育休を取得した際に、育児休業給付金が後払いとなり、改善できないかなと感じました。平塚市の制度ではないので難しいとは思いますが、当面の生活費で困る方もいると思うので、貸付制度などがあるといいと思いました。

【参加者F】

未就学児が2人います。結婚を機に専業主婦になりました。公園施設についてと、近くに頼れる身内がない家庭への支援についてお話ししたいと思います。

【参加者G】

関西出身で結婚を機に平塚に転居してきました。現在0歳児の育休中ですが、来年復職すると都内の勤務先まで往復3時間かかります。ファミリーサポートセンターを利用したいと思っていますが、支援会員が見つからない状況です。支援会員を増やしていただくようお願いしたいと思います。

【参加者H】

小学校1年生と5歳の子を育てるシングルマザーで、フルタイムで仕事をしています。学童の費用はおやつ代を含めると月17,000円ほどかかります。下の子も利用すると34,000円となり大きな負担となっている点についてお話ししたいと思います。

【参加者I】

小学校2年生と2歳の子がいます。私は東京出身で結婚を機に平塚に来ました。東京だと小学生に「まもるっち」というGPS付携帯電話が支給されます。我が家は学校まで30分以上かかるため、防犯のためにGPS機能の

付いた機器を支給してもらいたいと思います。

担当課補足

「まもるっち」は品川区独自の児童見守りシステム。登録者に無償貸与され、標準では見守りセンターとの通話のみ可能。危険を感じた児童がストラップを引くと、見守りセンターに緊急通報され、近隣の協力者への状況確認依頼と保護者への連絡が行われる。

【参加者 J】

5歳と2歳の子がいます。私は都内で勤務しています。妻は専業主婦のため収入は限られます。将来の子どもの塾や習い事の費用について不安に感じています。子どもにとっては学習面だけでなく、経験や人とのつながりをもつ重要な機会だと思うので、ぜひ支援があるとありがたいですし、平塚が子育てしやすいまちとして、PRできるのではないかと考えています。

【司会】

皆様から率直な御意見をいただきました。いくつか共通の課題が出てきたように感じました。まずは、働くパパ・ママの子育てについて御意見がありました。今日は小学校の先生も御参加いただいておりますが、小学校生活について、追加の御意見などある方はいますか。

【参加者 I】

小学校には学習支援補助員（サン・サンスタッフ）が3人配置されているようですが、もっと増員してもらえるといいと思います。1年生への支援が中心のようなので進級しても支援してもらえると助かります。また担任が休めるように副担任を配置するのもいいと思います。

【参加者 C】

現在、住宅購入を検討中ですが、候補物件は小学校まで田んぼ道を30分近く歩くことになるため見送りました。通学路の安全対策や、地域の防犯対策は子育て世代にとって重要です。より一層の対策はもちろんですが、現状を分かりやすく情報提供してもらえるといいと思います。

【参加者 H】

子の担任も未就学児をお持ちのようですが、夜7時でも電話をもらうこともあり、私もフルタイムで働く1人ですが、先生は本当に大変な仕事だと感じています

【司会】

先生の大変さと、働く保護者の大変さは、働き方の問題として共通する部分が多いかと思います。国も平塚市も様々な働き方改革を推進していると思いますが、市長からもお話しいただきたいと思います。

【市長】

教職員の配置は、国の基準により神奈川県が決定しているものですが、現場の先生方が大変御苦労されていることは、教育長からも報告を受けていますので、国・県に増員を要望しています。平塚市独自の取組であるサン・サンスタッフは、当初各校1人配置でしたが、数年前から各校3人程度まで増員しました。

平塚市としても働き方改革として、様々な取組を行っています。例えば、「イクボス宣言」として、ワーク・ライフ・バランスの推進による男性の家事・育児参加意識の向上や、子育てに理解のある企業に対して手厚く支援するなどの取組を行っています。

また、コロナ禍を契機として、デジタル化が一気に進んできています。平塚市でも児童生徒に1人1台タブレットを配備し、各教室に65インチモニターを設置しました。当初は、コロナ禍において学びを保障することが大きな目的でしたが、ポストコロナにおいては教育の質の向上と先生の負担軽減にも大きく貢献すると期待しています。テレワークやGIGAスクール構想が定着することで、保護者や先生の働き方は大きく変わると考えていますので、デジタル化は積極的に推進していきたいと考えています。

【司会】

次に、ファミリーサポートセンターについて充実させてほしいと御意見がありました。利用されている方から現状をお伝えいただけますか。

【参加者 C】

まず利用登録するまでにすごく時間がかかります。平日昼間に子を連れて来所して説明を受け、次に支援会員と面談を行い、その次に支援会員宅での慣らしがあり、ようやく利用登録ができます。実際の利用に当たっては、依頼者から支援会員に直接連絡をとって依頼するシステムです。利用者にとってとても利用しづらいです。事前面談は子どもの安心安全に関わることなので、念入りにやらなければならないことは理解しますが、もう少し簡素化してほしいです。また支援会員との調整も当事者任せではなくしっかり仲介してほしいですし、場所も支援会員宅ではなく、空き家等を活用して平塚市で確保してほしいと思います。結局利用をあきらめてしまっているのが現状です。

【参加者 G】

私も復職に向けて利用申し込みをしていますが、まだ支援会員が見つかっていない状況で面談までも進んでいません。私も支援会員宅で預かってもらうことは、物を壊してしまわないかなど心配です。平塚市は福祉村も充実していると聞きますので、そういう場所で預かってもらえるといいなと思います。また、平塚市内には子育て支援タクシーとして子どもの送迎をしてくれ

るタクシー事業者もあると聞きます。送迎だけでなく保育も組み合わせてもらえると保護者にとってありがたいなと思います。

【参加者 C】

私も保育タクシーがあるといいなと思います。保育園の延長保育をお願いするより、職場か自宅まで子どもを送ってもらえると今まで急いで迎えに行っていた負担がなくなり、ありがたいです。

【市長】

ファミリーサポートセンターについては、働く保護者が増え、支援会員より依頼会員が多くなっているのが現状です。利用登録やマッチング方法の改善については、いただいた率直な御意見を担当課に伝えたいと思います。

【司会】

子育て関係の費用について御意見がありました。追加や補足の御意見ありますか。

【参加者 E】

育休を取得してから給付まで2～3か月かかります。その間、定期的な収入がなくなってしまうので、子育て支援金のような給付制度があるといいなと思いました。

【参加者 F】

4歳の子は幼稚園内で体操教室を受講していますが、月6,600円かかっています。今後、塾や習い事の費用負担は心配です。

【参加者 J】

上の子は絵を描くことが好きなので、絵画教室を受講していて月1万円弱かかっています。

【参加者 H】

双子や年子で小学校低学年が2人いる家庭は、費用面から学童に預けずに、親が仕事をセーブして下校時間までに帰宅するようにしている家庭もあるようです。また、近隣小学校では子どもの家や図書館が近くにあるため、大人の見守りがあるなかで過ごしているらしく、うらやましいなと思いました。

【司会】

平塚市では「町内福祉村」が市内18か所あります。学習支援などの活動もしている地域もあるようです。高齢者と子育て世代とのマッチングができるといいのかなと思いました。また平塚市は各小学校区に公民館があり、サークル活動もとても活発です。参加費用も無料から1回数百円で利用できます。優れた専門的スキルをお持ちの方が講師をされていることも多いです。

【参加者 G】

福祉村の情報などは、妊娠・出産時に紙ベースでいただいた膨大なチラシ

等にあったのですが、内容がわかりづらかったり自分が対象になるかがわからなかったです。わかりやすく情報発信してほしいと思います。

【市長】

子どもは日本や地域を支える社会の宝ですので、健全にすくすくと育ってもらおうよう支援していきたいと思っています。学童については国の基準に基づき平塚市からも委託料を支出しています。それでも不足する部分について月14,000円を超えないように保育料として利用者に負担していただきながら、生活保護世帯や市民税非課税世帯には減免制度を設けています。より良い保育が提供できるように、保育料の問題も含めて検討していきたいと考えています。

教育環境の整備については、公教育の充実が基本になると考えています。現状では習い事等への補助は大変難しいですが、先ほどの公民館や福祉村等でのサークル活動などを始め、様々な機会の提供を行っています。また放課後、学校や地域での学習サポートを行っている団体を支援したり、文化・芸術関係では、美術館等で親子絵画教室、各種スポーツの講座を開催したりしていますので、ぜひ御利用いただきたいと思います。最後に育児休業給付金については国の制度であるため、御意見については国にお伝えしたいと思いますが、平塚市の各種手続きにおいても市民がスピーディーだと感じてもらえるよう努めたいと思います。

担当課補足

妊娠・出産期にお渡ししているチラシ類については、今後厳選するとともに、成長の時期に合わせて情報を整理した子育て家庭向けのアプリなどを研究してまいります。

【司会】

最後に、公共施設の駐車料金、総合公園の施設や遊具の使い方・ルールについて、御意見をいただきました。追加や補足の御意見などありますか。

【参加者B】

以前は大きな広場や大型遊具やちびっこ動物園もあり、よく利用していましたが、有料化後は秦野方面の公園に行くようになりました。また、保育園、子どもの家にも駐車場はないため、近隣の公民館など公共施設駐車場を利用できるようにしてもらいたいと思います。

【参加者F】

総合公園南側に子ども用のトイレを整備していただきありがたいのですが、球場北側のより小さい子どもが遊ぶエリアにも整備していただきたいです。また市内に魅力的な公園は多いのですが、やはり駐車場がないと利用できず、残念です。

【市長】

総合公園全体の魅力化を図るため、駐車場整備・運営費の一部を利用者に負担いただくため有料化を実施しましたが、有料化に当たっては皆様からの御意見を踏まえて2時間無料としました。公共施設の駐車場の相互利用については、今後必要な考え方だと思いますので、検討していきたいです。平塚市は美術館、博物館、図書館4館、公民館26館など社会教育施設がとても充実しています。子育てだけでなく、地域活動や生涯学習などの機会に御活用いただきたいと思います。せっかくいい施設があっても、利用に当たって駐車場や駐車料金の問題で利用できないのであれば、今後見直しを行う際には検討したいと思います。

【司会】

今回のほっとミーティングに残念ながら参加できなかった方からも御意見をメールにていただいていますので紹介します。「施設の老朽化、バリアフリー」「予防接種の補助継続、小児医療費助成、病児保育の充実」「子どもの居場所づくり」「保育園・幼稚園の入園条件、利用料」「妊産婦への支援」「中学校生活」「教育環境」など多くの御意見をいただきました。市長も全てのメールを御覧になり、担当課と情報共有されると伺っていますので、御報告させていただきます。

7 市長によるまとめ

本日は、率直な御意見をいただきありがとうございました。また日頃大変な御苦勞もありながら、社会の宝であるお子様を育てていただいていることに重ねて御礼申し上げます。御意見に対し、本日この場で実施をお約束できないことは大変恐縮ですが、今後の市政に少しでも反映できるようにしていきたいと思っています。このコロナ禍は、GIGAスクール構想やテレワークの普及、更には環境問題まで社会を大きく変える契機となりました。平塚というまちが大人も子どもも住みやすく、行ってみたい、住んでみたいと思ってもらえるように、持続可能なまちづくりを進めていくことが私の仕事だと考えています。最後になりますが、第6波が懸念されるなど、まだ新型コロナの脅威は去っていません。お子様の安心安全のためにも、引き続き感染対策の徹底に御協力をいただきたいと思っています。本日はありがとうございました。

以 上

参加できなかった方からの御意見等

●施設の老朽化、バリアフリー、機能拡充

・公民館の新築もしくは改築

金目地区は金目公民館を利用させていただいているが、施設が老朽化しており利用しづらい雰囲気がある。幼児の遊び場も月一開催されているが、床が古くハイハイの赤ちゃんには不向きである。また図書利用もできるが週一午後のみで、利用しづらい。他市では毎日開所されており、中央図書館まで行き来しなくても貸し借りがしやすい状況があるが平塚市はそれがなく非常に残念である。地域に根ざした公民館を整えていただきたい。

担当課回答

市内にある公民館は、建設時から長い年月が経つ館が多く、修繕の必要な箇所が増加し、全てに対応することが困難な状況です。このような中、公民館内の施設修繕については、緊急性、利用頻度、金額等を総合的に判断し、進めています。金目公民館は、外壁修繕や屋上防水等、建物自体の修繕から行いたいと考えています。また図書の貸し出しについては、ボランティアにより運営されています。開設日数には限りがありますが、図書の整理や、本のアドバイスが受けられるなど、長年地域に親しまれています。今年度、「平塚市電子図書館」を開設しましたが、今後も読書環境の改善に努めていきます。

(事務担当は中央公民館)

・小学校にエレベーターを設置してほしい。

来年小学校に上がる長男は3年前から病気で車椅子を利用しています。手術の可能性もあります。来年、小学校に上がると小学校での生活や学童など不便を強いられることに不安を感じております。バリアフリーやエレベーターのある小学校は平塚でも珍しく長男の行く小学校にもありませんが、1年生の教室は2階です。昇降機を設置することも可能なようですがエレベーターよりもやはり不便だと思います。病気でなくても骨折する子も使うことはあると思います。バリアフリーな小学校が増えることを願います。今共働きをしておりますが、妻は小学校入学で仕事をやめざるを得ない状況になるかもしれません。ハンディを持つ子もその家族もみんなが子育てしやすい市になるよう願います。本当は、直接、お会いして、現状を知って頂きたいと思っておりました。こういう機会を頂いて、ありがとうございます。

担当課回答

エレベーターの設置には、建物の構造上の問題や、設置までに期間がかかるなど検討が必要になることから、現状ではいす式階段昇降機や、階段昇降車等で対応をして

います。各学校や子ども教育相談センターと十分な協議や検討を行い、誰もが使いやすいようバリアフリー化の整備に努めます。

(事務担当は教育施設課)

・みずほ小学校の校庭、校舎の充実

みずほ小学校は現在、校庭にプレハブを増築しているが、このため校庭がどんどん狭まり活動がしにくい状況と聞く。今後も児童数は増えていくことは目に見えており、きちんとした施設を整えていただきたい。

また校庭にどんどん増設すると児童の活動に支障をきたす。実際、行事が体育館との入れ替え制で、かなり窮屈な思いをしながらの利用と聞く。校庭をしっかり確保していただきたい。

担当課回答

みずほ小学校の今回の増築については、児童生徒数の推計により数年後には減少する見込みであることから、一時的なものであり、減少後は解体することとしています。みずほ小学校の皆様には、不自由な思いをさせてしまうこととなりますが、休み時間等の過ごし方をはじめ、運動場と体育館との効果的活用など、工夫しながら対応するとして学校と調整しています。

今後とも関係各課と連携を図りながら、適切な教育環境の整備に努めていきます。

(事務担当は教育施設課)

・図書館に学習スペースを設置してほしい。

霧島市の図書館には無料で利用できる学習室があります。老若男女、学びたい人がいくつかの決まりを守って利用する空間ですが、私自身も何度も使用したことがありますが、とても集中できて良かったと思っています。コロナもあり今は難しいかもしれませんが、平塚市にもそういった施設があると、学びたい人のサポートになるのではと感じます。

担当課回答

現状の施設の中で新しい空間をつくることは難しい部分もありますが、施設の改修の際に検討していきます。なお、中央図書館では、3階の参考室に図書館所蔵の資料を利用して学習するための机を用意しています。個席になっており、パソコンが利用できる席も用意していますので、ぜひ御利用いただければと思います。

(事務担当は中央図書館)

● 予防接種の補助継続、小児医療費助成、病児保育の充実

・子どものインフルエンザワクチン助成継続をお願いします。

インフルエンザワクチンは、新型コロナウイルスワクチンと違って安全性や有効性などがし

っかり数値化されています。まだまだ新型コロナウイルスとの闘いの終わりが見えませんが、このコロナ禍が終わるまでは子どものインフルエンザワクチンの助成を継続していただくと大変助かります。

担当課回答

令和3年度は新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行となった際、市内の医療機関のひっ迫を防ぐため、新型コロナワクチンの予防接種のできない12歳未満の子どもを対象に費用の一部である2,000円を助成いたしました。来年度以降は、感染状況等により、対策が必要と判断すれば施策を検討します。

(事務担当は健康課)

- ・子どもの歯科矯正に対する助成を御検討ください。

歯並びは、見た目問題だけでなく口内の健康、ひいては寿命に大きく左右されると言われています。しかし、現状の歯科矯正は口蓋裂などの特別な場合以外は全て自費診療となり、大変な金額が発生します。生活の裕福さによって子どもの健康が左右されてしまうのはどうかと思います。ぜひ、歯並びに悩む全ての子どもが自分の笑顔に自信を持てるよう、一定程度の助成を御検討くださると大変幸いです。

担当課回答

本市の小児医療費助成事業は病気やけがなどで医療機関にかかったとき、入院・通院ともに保険診療分の患者負担額を市が助成するものです。保険適用外のものについては、助成対象に含まれないため自己負担となります。歯列矯正についても保険診療であれば小児医療の助成対象となります。本事業への御理解と御協力よろしく願いいたします。

(事務担当はこども家庭課)

- ・病児保育室の増設について

現在、産休中で、今後復帰予定なのですが、「子どもの体調が優れず、保育園に預けられないが、仕事もどうしても休めない…」 「身近に頼る人がいない為困っている…」 というような場合、平塚保育園病後児保育室「なでしこ」や「麦・もんもん病児保育室」のような園が身近にあると、大変心強いです。共働きやひとり親が当たり前の世の中で、実際、我が家も共働き家庭です。安心して働くことができるよう、ひとつでも多く園が増えることを期待しています。

担当課回答

病児・病後児保育施設は、仕事と子育ての両立を支援し、セーフティネットとしての機能を果たす役割もありますので、既存施設の利用状況や運営状況を注視しながら、更なる拡充も視野に入れて取り組んでいきます。

(事務担当は保育課)

●子どもの居場所づくり

・朝の子どもの居場所づくり

認可保育園は朝7時から受け入れを行っていただいています。朝早くから仕事をしなければならない保護者や、通勤に2時間近くかかってしまう共働き家庭にとっては、仕事量を調整したり、育短を利用したりでどちらも辞めることなく働けているので非常に助かっています。

しかし、小学校にあがると学校の始まる時間が遅いためそれもできず、6歳に戸締まりを強いること防犯上危険なためどちらかは辞めざるをえなくなります。そこで、大磯町が2015年から行っている「朝の子どもの居場所づくり事業」のように平塚ならではの早朝学童保育の導入をぜひ検討し、早期に実現していただきたいです。よろしく願いいたします。

担当課回答

放課後児童クラブ（学童保育）は、児童の保護者が放課後等において就労等により児童の保育が出来ない日が週3日以上ある児童を対象に実施する制度です。御希望される小学校の始業前からの受入れについては制度に当てはまらない内容で、学童保育としての実施は難しい状況ですが、御提案いただいた御意見は今後子育て施策を進めていく上での参考とさせていただきます。

（事務担当は青少年課）

・不登校の子どもが集まれる場所をつくってください。

娘が一時不登校になった経験があります。学校側がしっかり調査してくださり、娘側に非がないことがわかりました。しかし、娘側に非がなくてもしばらく学校へ行けませんでした。フリースクールの使用も検討しましたが、かなりの高額で手が出ませんでした。そこで、市として、不登校の子どもたちが集える場所を作っていただけませんかでしょうか。

不登校の子どもたちが、勉強をしたり、いわゆる「同志」で支え合えるような場所を作っていただけませんか。高いお金を支払わなくとも、健全に同世代の子どもたちと過ごせるようになる練習の場があったらいいなと思います。

担当課回答

多くの学校では、不登校や不登校傾向の児童生徒が安心して登校できるよう、保健室や空き教室等の場所を活用し、不登校児童生徒が学校での居場所として過ごせる体制づくりに努めています。また、子ども教育相談センターには、学校に登校しない、あるいは登校したくてもできない児童生徒が通う場所として、適応指導教室「くすのき」を併設しています。教育相談員のカウンセリングを受けながら、指導員と一緒に小集団活動をしたり、個別の学習をしたりして、通ってくる児童生徒同士も関わり支え合

いながら、社会生活や学校生活に適応できることを目指しています。適応指導教室への通室を御希望される場合は、まずは、子ども教育相談センターでの教育相談をお申し込みください。

(事務担当は子ども教育相談センター)

- ・金目幼稚園の跡地を子どもの遊び場にしてほしいです。

南金目に住んでいますが、近くに公園がありません。金目幼稚園の跡地を子供の遊び場にして頂けると嬉しいです。

担当課回答

北金目にある金目おむすび保育園内に、おおむね3歳までのお子さんとその保護者を対象とし、親子が自由に遊び、交流できる「つどいの広場ここにくらす」を開設しています。新たなつどいの広場の開設は、難しい状況ですが、御意見を参考にさせていただきます。

(事務担当は保育課)

子どもたちが軽スポーツやレクリエーション等ができる場として「青少年広場」がありますが、公園と異なり恒久的な施設ではなく、暫定的な施設として遊具等は一切設置しないこととしています。また、広場の設置には日常の維持管理を地元で行ってもらう必要があるなどの条件があるため、金目幼稚園跡地に青少年広場の設置は考えていません。

(事務担当は青少年課)

金目幼稚園の跡地は、現在のところ公園など行政目的での利活用の予定はありません。今後も利活用の検討を行い、行政目的での利活用が見込まれない場合は、売却等を検討します。

(事務担当は資産経営課)

- ・学童による小学生向け一時受け入れ対応の提案

小学校になれば一般的に何でもできるようになる年頃ですが、一方で低学年のうちはまだその過渡期といえます。そのため、親に突発的かつ単発的な出来事が生じた時、低学年の子どもに留守番をさせるのは不安だということが度々起こります。そんなときのために、学童にて小学校低学年の子どもを単発(有料)で受け入れるシステムを作っていただけませんか。やむを得ない事情の時のみ、有料で1回単位で申し込めるようなシステムがあると幸いです。ぜひ御検討よろしく願いいたします。

担当課回答

放課後児童クラブ（学童）は、児童の保護者が放課後等において就労等により児童の保育が出来ない日が週3日以上ある児童を対象に実施する制度です。御希望される一時受け入れについては制度に当てはまらない内容で、学童保育としての実施は難しい状況ですが、御提案いただいた御意見は今後子育て施策を進めていく上での参考とさせていただきます。

（事務担当は青少年課）

●保育園・幼稚園の入園条件、利用料

・保育施設の入園条件について

以前は1日6時間、週2で働いていました。この時間帯に子どもを預けたかったのですが利用条件に当てはまりませんでした。正社員の人よりも優先度が低くても様々な働き方をしている人が申し込み出来るようにして欲しいです。待機児童ゼロとのニュースも見ましたが、利用したくても出来ない人がいることも知って欲しい。

事務局回答

いただいた御意見は担当課へお伝えさせていただきました。

・幼稚園・保育園の無償化について

現在、2号認定をもらって幼稚園を利用しています。預かり保育もあり、とても助かっています。ただ、幼稚園通常保育14時までで、そこから預かり保育14～17時まで1時間100円、おやつ100円で1日400円です。午前保育のときや、長期休みのときはそれ以上かかり、無償化の1日最大450円を超えてしまいます。月の上限金額には届かなくても、1日の上限金額にひっかかり持ち出し金額が多くなる月があります。可能であれば1日の上限金額を撤廃するか、引き上げて頂けると嬉しいです。

担当課回答

幼稚園を御利用いただいている時間を拝見すると、保育所への入所条件を満たしていると思われます。保育所に入所できると、幼児教育・保育の無償化制度により保育料が無償になりますので、保育所の入所も御検討いただければと思います。入所申込については、保育課保育担当（電話21-9612）へお問い合わせください。

（事務担当は保育課）

・金目地区の子どもが保育施設を利用しやすくしてほしい。

保育施設は限られており、近年おむすび保育園が新設されたがそれでも足りず、保育園に通わせたい保護者がスムーズに入れず、他市の保育施設を選ぶことも多い。しかし近隣の他市に保育希望を出しても市外のため落選し、保育難民になることも。ぜひさらなる保育施設を建てるための予算補助や人員を増やしていただきたい！もし

くは、近隣市への保育利用をスムーズに取り次いでいただきたい。市が違えばポイントが減る上(勤務地なのに)優先順位がかなり下がる。(自身も経験あり)これはかなりの働く世代へのダメージである。学童についても同様。

担当課回答

保育所は、市町村が児童福祉法及び子ども・子育て支援法の定めるところにより、保育の必要性のある児童のために保育する児童福祉施設であることから、各市町村とも、原則、所在地の児童を優先しています。また、効果的に保育施設を設置するためには、市内の保育ニーズを分析することが必要であると考えています。今後も保育ニーズに応じた施設整備を検討していきます。

(事務担当は保育課)

放課後児童クラブ(学童)については、令和元年度・2年度と待機児童は出ておりません。今後も利用希望者が入所できるように、継続的に学童の利用希望状況等の把握に努めるとともに、クラブを増設するなどして児童の受け入れ充実を図っていきます。

(事務担当は青少年課)

●妊産婦への支援

・産後ケア事業の拡充と補助

コロナの影響もあり、産後うつ、育児ノイローゼが増えていると聞く。自身も3人の子育てをしているが、中でも産後の精神的、体力的ストレスは大きかったと感じる。全国的に実施されている産後ケアの充実を図っていただきたい。産後ケアを日帰りで行う施設利用に補助を出していただき利用しやすくしてほしい。実際利用した自身は、日帰り滞在で実費15,000円かかった。近隣市では補助が出て2~3,000円負担と聞く。平塚市内の施設なのに他市には補助があるとはおかしな話だと思う。

担当課回答

本市では、産後ケア事業は集団型のデイサービスを行っています。ショートステイやアウトリーチなどは行っていません。近年、コロナ禍の外出自粛の影響で、実家に頼ることができず、自宅で過ごす時間が長くなるなど、産後うつになる方も増えています。このような方々を受け入れるデイサービスやショートステイなど、産後ケア事業の充実が必要であると認識しています。今後も妊産婦のニーズなどを把握し、必要な産後ケアのあり方や、事業の充実について検討していきます。

(事務担当は健康課)

・育児応援補助券の配付

紙おむつや粉ミルク、離乳食など、日々なくてはならない消耗品を、薬局や専門店

で使える補助券などを、出産祝いとして市から配付してくださると家計や育児が大変助かります。

担当課回答

御意見ありがとうございました。今後の参考とさせていただきます。

(事務担当は健康課)

・妊婦タクシーの期限延長について

妊婦タクシーという制度が平塚市にあること自体、妊婦にとってはとても有り難い話なのですが、年度(3月末)で使用期限が終わってしまうことが残念でなりません。4月や5月生まれの場合、一番利用したいお腹が大きい時に利用できないので、「妊娠～産後2ヶ月まで利用可」にさせていただくか、それが予算の関係で不可能であれば、「市や保健センターにて使用延長手続きをすれば産後2ヶ月まで使用可能」等の延長措置を行っていただきたいです。

担当課回答

妊婦タクシーを御利用いただきありがとうございます。この制度は1年間のみ利用可能となっていますので、4月1日以降の延長は今のところありません。

(事務担当は健康課)

● 中学校生活

・中学校の制服・ジャージを安価なブランドにしてください。

中学生は、男女ともに成長著しい時期であります。在学中にサイズアウトすることが大いに見込まれるのに、高額な制服を購入するのは大きな家計の負担になります。制服での登校は各種式典と定期テストの時期のみに限られ、それ以外はジャージで過ごすことがほとんどであるのが現状です。従いまして、制服やジャージは買い替えしやすい、例えばユニクロ製にしたり、もっともっと制服業者間の価格競争を行ってほしいです。また、体操服Tシャツなどは「指定業者からの購入必須」を見直し、「白いもの、カラー不可」などの指定のみで自由購入としていただきたいです。

担当課回答

制服(標準服)を着用することは、生徒たちの集団帰属意識を高め、正しく着用することで、集団としての規律を保つとともに、一人一人の規範意識を育むという教育的効果をもっており、意義のあるものと考えております。また、体育着(ジャージ)は、現在、各中学校で、制服とともに学校生活における被服の中心として、実技教科の授業や部活動及び清掃活動等の活動着としての役割もっています。

制服と体育着(ジャージ)については、中学校ごとに指定しております。御不明な点等につきましては、中学校にお問い合わせいただき、御確認くださいようお願いいたします。

(事務担当は教育指導課)